

令和元年度 大気汚染医療費助成制度の患者データ解析について

1 保健医療分野

(1) 目的

- ア 医療機関受診状況・救外受診状況を把握し保健指導方法を検討する。
- イ 服薬状況・自己管理手段の利用状況などについて、患者の実態を把握し保健指導を強化すべき階層を分析する。
- ウ 喫煙と重症度、ステロイド用量およびQOLスコアに与える影響を評価する。
- エ 受動喫煙についての状況を把握する。

(2) 解析項目

- ア 定期受診および救急外来受診状況
- イ 吸入ステロイドの服薬状況
- ウ 自己管理手段の利用状況
- エ 喫煙経験の有無と重症度、ブリンクマン指数、ステロイド用量・QOLスコアとの関係
- オ 受動喫煙と重症度との関係
- カ 発症年齢による病型分類の分布（小児発症群、成人発症群、成人再発群）

(3) 解析資料

- ア 主治医診療報告書（平成30年4月～平成31年3月認定分）
- イ 健康・生活環境に関する質問票【質問1～19】（平成30年4月～平成31年3月認定分）

2 生活環境分野

(1) 目的

ぜん息患者が実際に行っている生活環境整備の状況を把握するとともに、効果が高いと推定される項目を調査し、患者の自己管理能力を高め症状改善に繋げる普及啓発のための資料とする。

(2) 解析項目

- ア 医療機関からの指導状況
- イ 生活環境整備の取組状況
- ウ アレルゲン検査結果
- エ 生活環境整備とその効果の感じ方
- オ 平成 28 年度と平成 30 年度における同一患者データの比較

(3) 解析資料

- ア 主治医診療報告書
平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月認定分及び平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月認定分
- イ 健康・生活環境に関する質問票
平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月認定分及び平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月認定分

(4) 検討課題

質問 21 と質問 22 の生活環境整備の状況に関する回答にバラツキが起きないようにするため、設問の方法を検討してきた。

検討の結果、質問 22 の設問を以下のとおり微修正する。

- ア 設問の修正
(現行) 生活環境の整備を行ってから、発作回数の減少等、効果があったと感じられますか。
1 はい 2 いいえ 3 生活環境の整備は行っていない

(案) ぜん息と診断されてから、ご家庭での生活環境の整備をしたことで、症状の出現回数が減少した等効果があったと感じられますか。
1 はい 2 いいえ
- イ 参考：平成 30 年度にあった当該設問に対する意見
 - 発作ではなく、症状の発現等の方が適切ではないか
 - 最後の方の質問であり、質問の矛盾率が大幅に減らないこともある
 - ぜん息患者にとって益のあるデータを出してほしい 等